

15:1 私たち力のある者は、力のない人たちの弱さになうべきです。自分を喜ばせるべきではありません。

15:2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

15:3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさなかったのです。むしろ、「あなたをそしる人々のそしりは、わたしの上にふりかかった。」と書いてあるとおりです。

15:4 昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。

15:5 どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。

15:6 それは、あなたがたが、心をつにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。

15:7 こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。

15:8 私は言います。キリストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとなりました。それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、

15:9 また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれていますとおりです。「それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名を

ほめ歌おう。」

15:10 また、こうも言われています。「異邦人よ。主の民とともに喜べ。」

15:11 さらにまた、「すべての異邦人よ。主をほめよ。もろもろの国民よ。主をたたえよ。」

15:12 さらにまた、イザヤがこう言っています。「エッサイの根が起る。異邦人を治めるために立ち上がる方である。異邦人はこの方に望みをかける。」

15:13 どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

イエス様は弱い者のために地上に生まれ、仕えてくださいました。十字架が必要なのは罪と死に縛られた弱い者のためです。もちろんそれは全人類のためです。しかし私たちは救われてしまうと、まるで自分が弱くなかったかのように、弱い人たちのことを忘れてしまいがちです。

イエス様ご自身が、「ご自分を喜ばせることをなさなかった」のですから、私たちもまたそれに倣って、自分よりも他の人を特に弱い人のことを考えたいものです。それは大変なことのように感じるかもしれませんが、自分を必要としている人の役に立つことは嬉しいことです。また主の喜ばれることをするのは、自分も喜びが湧いてくるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

